

## 行事等

8月2～5日：韓国動物病院協会国際大会に酒井副会長出席  
8月8日：アジア地域臨床獣医師等研修事業・全体研修(7月29日～)  
8月9日：中国地区獣医師会連合会臨時総会に酒井副会長出席  
8月16日：業務運営幹部会

8月22日：化成品の安定供給のためのガイドライン普及事業委員会に境専務理事出席  
8月23日：健全な家畜取引推進のための啓発普及事業に係る現地検討会に境専務理事出席  
8月25日：第20回全国学校飼育動物研究大会に木村理事出席  
8月28日～9月1日：第30回世界牛病学会2018札幌に藏内会長、酒井副会長、境専務理事、北村顧問出席

## 案内

### 岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター 第15回研修会 「食の安全・安心のために今求められるもの」の開催

#### 目的：

農畜産業の現場ではGAP (Good Agricultural Practice) や農場 HACCP への対応が求められている。これらは、環境や働く人の安全に配慮した農業の推進と、生産される農畜産物の安全の向上を目的としたもので、世界標準となりつつある。一方、今年6月には HACCP の義務化などを含む食品衛生法改正案が可決され、食品関連事業者にはその対応が求められている。本研修会はこの2点を中心に、食に関わる人に今求められていることについて理解を深め、食の安全・安心の向上に資することを目的としている。

日時：平成30年9月20日(木) 13:00～17:00  
(受付 12:30～13:00)

場所：岩手大学教育学部 北桐ホール

#### 内容：

- ①「GAPと農場 HACCP」  
川田良浩 (農林水産省消費安全局動物衛生課  
課長補佐, FAMS 客員教授)
- ②「認証農場からの報告」  
安達 健 (みなみよ〜とん(株),  
(株)フリーデン提携牧場)  
川口谷 仁 (株)Kalm 角山)
- ③「今注目すべきハザード」  
寺嶋 淳 (岩手大学農学部教授,  
FAMS 食品安全科学ユニット長)
- ④「食品衛生法改正への対応」  
熊谷優子 (国立感染症研究所国際協力室長,  
FAMS 客員教授)

#### 対象者：

農畜産物の生産に携わっている方、営農指導、衛生指導、動物医療に携わっている方、食品の加工製造、流通販売、飲食店等に携わっている方

#### 受講料：

3,000円 (資料代, 申込受付後に振込用紙を送付。  
振込手数料は受講者負担。受講者には、  
本センター長発行の受講証書を授与。)

#### 情報交換会：

研修会終了後に学内にて開催。当日会費3,000円。

#### 申込方法：

FAX または E-mail で9月18日(火)までに、件名を「研修会申し込み」とし、参加者氏名(ふりがな)、所属、住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス、情報交換会出欠を明記の上申し込み。

#### 申込・連絡先：

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8  
岩手大学農学部地域連携推進室  
担当：芳賀・岡田  
☎ 019-621-6108 FAX 019-621-6107  
E-mail : fams@iwate-u.ac.jp

#### その他：

本研修会は日本獣医師会の生涯研修事業の対象。

案 内

## 第31回 日本ウマ科学会学術集会のお知らせ

日 時：2018年12月3日(月) 11:00～  
12月4日(火) 9:00～

場 所：国際ファッションセンター  
(KFC Hall & Rooms)  
〒130-0015 東京都墨田区横網1-6-1  
☎03-5610-5801

### 内 容：

#### ◎12月3日(月)

- ①一般講演
- ②ランチョンセミナー
- ③JRAとの合同懇親会 他
  - \*第60回JRA競走馬に関する調査研究発表会を併行開催

#### ◎12月4日(火)

- ①臨床委員会企画 症例検討会  
テーマ：馬の新生子内科疾患
  - ・「高齢の母馬(晩系)から生まれた子馬の管理」  
滄木孝弘(帯広畜産大学)
  - ・「新生子馬不適応症候群の原因と治療に対する検討」  
宮越大輔(NOSAIみなみ  
家畜高度医療センター)
  - ・「一牧場におけるHIEに対する早期診断・治療」  
大久保正人(ノーザンファーム)
  - ・「新生子溶血症 症例報告」  
小笠原 慶(NOSAIみなみ  
西部家畜診療センター)
  - ・「新生子における屈曲異常と甲状腺ホルモンについて」  
敷地光盛(エルムホースクリニック)
  - ・「オキシテトラサイクリン投与後に急性腎不全を発症した新生子馬の一症例」  
遠藤祥郎(JRA日高育成牧場)
- ②2018年奨励賞受賞講演  
「重種馬における子宮疾患に関する研究」  
滄木孝弘(帯広畜産大学)

- ③2018年学会賞受賞講演  
「馬のバイオメカニクスに関する研究」  
高橋敏之(JRA競走馬総合研究所)
- ④JRA・日本ウマ科学会 合同シンポジウム  
テーマ：「競馬産業の国際化  
—これまでの取組みと将来—」
  - ・「日本のPart I 国入りまでの道のり」  
山野辺 啓(JRA馬事部)
  - ・「(JPN)を国際ブランドに」  
松田 薫(日本軽種馬協会業務部)
  - ・「施設面から見た各国の競馬場」  
高田順一(JRA施設部)
  - ・「安全な国際間移動の仕組みづくり」  
山中隆史(JRA馬事部)
  - ・「海外から見た日本競馬」  
吉田直哉(ウインチェスターファーム)
  - ・総合討論
- ⑤定時総会
- ⑥ランチョンセミナー 他

参加費：会員5,000円 非会員7,000円  
学生2,000円(学生証を提示)  
\*事前登録不要。当日、受付(KFC  
Hall:3F)にて支払い。

### 問い合わせ先：

- 日本ウマ科学会事務局  
〒329-0412 栃木県下野市柴1400-4  
JRA競走馬総合研究所内  
☎0285-39-7398 FAX0285-44-5676  
E-mail: e-office@equinst.go.jp
- 学術集会担当  
石田信繁(JRA総研 企画調整室)  
E-mail: noishida@equinst.go.jp

## 日本獣医師会学会学術誌投稿原稿の募集について

日本獣医師会学会においては、構成獣医師をはじめ多くの獣医療関係者からの学会学術誌掲載の研究論文を随時募集しておりますので、奮ってご投稿願います。

学会では、獣医師専門職をはじめ、獣医学系大学の学生、獣医学関係分野の研究者等が学術研究の発表をされる場として、学会学術誌への投稿原稿を広く募集しています。

日本獣医師会が毎年度開催する獣医学術学会年次大会で一般口演された研究発表等も、是非ともご投稿いただき、誌面での発表をお願いします。

なお、投稿を希望される方は、新たに一部改正された「**日本獣医師会学会学術誌投稿規程(第70巻12号821頁)**」及び投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に策定された「**日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き(本誌535頁)**」を熟読の上、原稿を作成、投稿されるようお願いします。

# 日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き

(平成28年4月1日 日本獣医師会)

## 1 目 的

本手引きは、日本獣医師会学会学術誌投稿規程（以下「投稿規程」）に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

## 2 投稿資格及び条件関連

- (1) 筆頭著者は、日本獣医師会構成獣医師若しくは賛助会員(個人に限る)でなければならない。それ以外の者が筆頭著者の場合は、投稿料を徴収する(投稿時審査料10,000円、採用時掲載料50,000円を納入する)。ただし、編集委員会が認めた者については、この限りでない。
- (2) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。
- (3) 投稿原稿は、獣医学が扱う臨床、動物衛生、食品衛生、環境衛生、人と動物の関係、獣医学教育、動物用医薬品・機器等を内容とする、獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし、委員会において、掲載に相応しい学術分野を指定する。
- (4) 他の学会誌等に投稿中、若しくは発表した論文等は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。

## 3 投稿要領関連

### (1) 電子投稿の場合

ア 投稿は、本会投稿用ホームページの電子投稿システムで行う。

イ 原稿は、本会投稿WEBサイト上の投稿マニュアルに従い、必要事項を記入した後、本文(表紙から引用文献までを1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名ー本文.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式で保存する)、図(すべての図を番号順に1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名ー図.拡張子名」とし、白黒1200dpi以上、グレースケール及びカラーは300dpi以上でPDFあるいは、PowerPoint/ppt, pptx形式、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xls形式、Photoshop (Jpeg, Tiff)/jpg, tiff形式で保存

【別表】掲載区分と投稿原稿の制限枚数及び刷り上り頁枚数

掲載区分	投稿原稿制限枚数 A4判ワープロ等 (25字×24行)	刷り上り頁数
総説	24枚	6頁以内
原著	20枚	5頁以内
短報	16枚	4頁以内
技術講座	16枚	4頁以内
資料	8枚	2頁以内

する)、表(すべての表を番号順に1つのファイルに集約して、ファイル名を「氏名ー表.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xls形式(映像化は不可)で保存する)を同サイト(<https://mc.manuscriptcentral.com/jvma>)にアップロードする(ファイル合計60MB以内)。

### (2) 郵送投稿の場合

ア 投稿は、所要事項を記載し、著者全員の署名した投稿票を必ず添付する。

イ 投稿原稿は、4部を提出する。

### (3) 原稿の体裁

原稿の文字色は、黒とし、A4判用紙を使用し、1頁(片面)を25字×24行の横書きで、明朝体(英文はCentury)を用い欄外下部中央にページ及び左欄外に行番号を付す。

なお、修正原稿については、修正箇所は青色の文字で記載する。

### (4) 原稿の枚数等

ア 原稿の枚数は、表題、和文要約、英文要約(SUMMARY)、本文、図(写真を含む)・表等すべてを含めた枚数で、投稿区分の規定枚数は、別表のとおりとする。

イ 特に図、表は、本文との兼合い(枚数、印刷時の大きさ)を十分考慮し、規定枚数内に納める。

### (5) そ の 他

以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

## 4 執筆要領関連(原著及び短報)

### (1) 用 語:

ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り(例:人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等)、それ以外のものはカタカナで表示する。

イ 薬品名は、原則として一般名若しくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する。

ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品(製品)名及び社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる(商品(製品)名、社名、都道府県名の順/例:ニチジュウワクチン、日獣製薬(株)、東京)。

### (2) 表紙(第1頁):

ア 最上段左側に部門名、希望投稿区分及び「新規」(新規投稿原稿の場合)あるいは「継続」(継続審査原稿の場合)の表示を赤字で明記する。

イ 次いで、表題、著者名、所属機関名(大学は学部名、都道府県勤務は支所名(本所は部名)、までとし、「○○

動物病院」⇒「〇〇県 開業」(県名は所属獣医師会または所在地名),「株式会社」⇒「(株)」,「公益(一般)社団法人」⇒「(公(一)社)」,「公益(一般)財団法人」⇒「(公(一)財)」,「独立行政法人」⇒「(独)」,「国立研究開発法人」⇒「(国研)」,「特殊法人」⇒「(特)」等とする。)及び所在地住所(郵便番号を含む。併せて、実際の動物病院名も記す。)を和文で記載する。

ウ 表題は原則として副題,括弧,略号,「～について」,「～に関して」等は付けない。

エ 最下段には連絡責任者の所属(大学は教室名,都道府県勤務は係名まで,動物病院等は,実際の名称を記載),住所,電話番号(ファックス番号),メールアドレスを記入し,別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する。

オ 表題が28字を超える場合には,28字以内の柱(ランニングヘッド)を記入する。

### (3) 和文要約(第2頁):

字数は360字以内とし,要約の最下段には,原著では5語以内,短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する。

### (4) 英文SUMMARY(第3頁):

ア 英文の表題,著者名,著者の所属機関名,所在地住所(郵便番号を含む),SUMMARY及びKey wordsを記載する。

イ SUMMARYは,250語以内とし,行間を広く空けて記載する。

ウ SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする。

エ Key wordsは,SUMMARYの最下段にABC順で記載する。

### (5) 本文(第4頁以降):

ア 原則として,①緒言(見出しは付けない),②材料及び方法,③成績,④考察,⑤引用文献の項目に区分して記述し,数字を用いて項目分けしない。(ただし,短報では必ずしも,この区分で記述する必要はない)。

イ 実験動物等の取り扱いについては,所属研究機関の動物実験ガイドライン(指針)に沿って動物に苦痛を与えないように実験を行った(または動物実験委員会の許可を得て実験を行った)旨を明記した上で,動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記述し,当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し,併せて動物の入手方法と飼育状況を具体的に記載する。

ウ 図(写真)・表

(ア) 図(イラストレーションを含む)は,原則として黒一色とし,A4版の白紙を用いて,表題を付け,原図から直接製版できるものとする。

(イ) 表は,縦罫線を入れない。

(ウ) 写真は,白黒でコントラストの明瞭なもの(カラー

の際はモノクロ印刷でも明瞭なもの)とし,表題と簡単な説明を付け,原寸印刷が可能ないように必要部分を横7.8cm,縦6.0cmまたは横15.5cm,縦10.0cmとする(郵送の場合は,同サイズに整形して台紙にコーナーのみを糊付けする)。

(エ) 写真には図と同様に一連の番号を付ける(郵送の場合は,初回投稿時には4部すべての原稿にオリジナルを添付するが,修正原稿提出時には変更がない限りコピーでも可とする。また,デジタル画像を用いる際は,明瞭な印刷ができるよう光沢紙等の専用紙を用いる)。

(オ) 図及び表は,挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記し,電子投稿の場合は,1つのファイルにまとめ,郵送の場合は,1点をそれぞれ1枚の台紙に貼付(デジタル画像も1枚ごとに印刷)し,写真とともに原稿の最後にまとめて添付する。

### エ 引用文献

(ア) 研究に密接に関係のあるものを引用する。引用できる文献は,学会誌,専門的学術誌あるいは専門書とし,学会抄録,講演会テキスト,レフリー制度のない商業雑誌等は原則として引用できない。

(イ) 本文中では,著者名の直後等,引用箇所に[1,3-5]のように記載する。

(ウ) 文末に,本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく。①雑誌の場合は,著者名(全員列記),論文のタイトル名,誌名,巻,頁(1箇所のみ),年次(カッコ書き)とする。②電子ジャーナルの場合は,著者名(全員列記),論文のタイトル名,誌名,巻,頁(1箇所のみ),年次,媒体,入手先(URLをカッコ書き),入手日(「参照」として,年月日を記載)とする。③単行本の場合は,著者(著者が複数の場合は,引用した著者のみ),記事のタイトル名,書籍名,訳者名(1名のみ記載し,その他は和文では「他」,英文では「et al」とする),編者名,版,頁,発行者,発行地,年次(カッコ書き)とする。ただし,著者名がない際は,編者がいる際は編者名を,その他は,学会,研究会等の名称を記載する。

(エ) 和文誌名は原則として省略しない。ただし,慣例的に使用されているものはこの限りではない(例:日獣会誌,日獣誌など)。

(オ) 欧文誌名の省略は,Journal Title Abbreviationsによる。指定のないものは省略しない。

### 【雑誌の場合】

[1] 青山太郎,青山花子,赤坂次郎:子牛の開放性骨折の1例,日獣会誌,45,115-120(1992)

[2] 青山太郎,青山花子,江戸三郎,東京愛:犬のレプトスピラ症の抗原検出法,日獣誌,30,135-138(1992)

[3] Aoyama T, Aoyama H: The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)

[4] Aoyama T, Aoyama H, Kanda J: A survey of heavy-

metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)

- [5] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y: Pathogenicity of the aino virus in japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

【電子ジャーナルの場合】

- [1] 永田四朗: 犬ブルセラ症の検出法, 家庭動物の感染学会誌, 25, 55-65 (2010), (オンライン), (<http://www.petzoonosis/article/25/1/1/pdf/s>), (参照 2013-04-20)
- [2] Williams A: Superinfection of bovine leukemia virus

genotypes in Africa, cattle doctor, 50, 215-220 (2012), (online), (<http://www.cattledoctor/lin/15/12/20/pdf/>), (accessed 2013-05-05)

【単行本の場合】

- [1] 神田一郎: マイコプラズマ, 獣医微生物学, 江戸三郎編, 第1版, 100-103, 青山堂出版, 東京 (1992)
- [2] Smith J: マイコトキシン中毒, 選択毒性, 赤坂次郎訳, 250, 学会出版センター, 東京 (1989)
- [3] Roitt IM: Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)

複製される方へ: 本誌に掲載された著作物を複製したい方は, (社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の方でないかぎり, 著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。  
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 一般社団法人学術著作権協会  
☎03-3475-5618 FAX 03-3475-5619 E-mail: jaacc@mtd.biglobe.ne.jp  
著作物の転載・翻訳のような, 複製以外の許諾は, 直接本会へご連絡下さい。アメリカ合衆国における複製については, 次に連絡して下さい。  
Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA Phone 1-978-750-8400 FAX 1-978-646-8600

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright clearance by the copyright owner of this publication.  
(Except in the USA)

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)  
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan  
Phone 81-3-3475-5618 FAX 81-3-3475-5619 E-mail: jaacc@mtd.biglobe.ne.jp

(In the USA)

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA  
Phone 1-978-750-8400 FAX 1-978-646-8600

## 日本獣医師会雑誌

平成30年9月20日発行 (毎月1回20日発行)

第71巻第9号 [Vol. 71 No. 9 (2018)]

頒 価 1,100円 (送料・消費税込み)

[本誌の購読料は会費に含めて徴収しています]

発 行 所 日 本 獣 医 師 会

(〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階)  
電話 03-3475-1601 (代) FAX 03-3475-1604

URL: <http://nichiju.lin.gr.jp>

e-mail: [info@nichiju.lin.gr.jp](mailto:info@nichiju.lin.gr.jp)

編 集 発 行 者 境 政 人

印 刷 所 株 式 会 社 加 藤 文 明 社